

学 位 論 文 要 旨

氏 名 佐 藤 大 介

題 目 小学校英語におけるICT活用指導力育成のための教員養成カリキュラム
開発に関する考察

学位論文要旨（和文2,000字又は英文1,000語程度）

近年の教育政策や社会的な要請，教師のICT活用指導力に関する問題点から，小学校教員と教職課程履修学生を対象に，小学校英語教育におけるICT活用の現状と課題に関する調査・分析を行い，小学校英語におけるICT活用指導力育成のための教員養成モデルカリキュラム開発に向けた考察，そして提言を試みた。

第1章では，学校教育に情報通信技術の導入・活用が進められる中，小学校教員養成カリキュラムに求められる学校のICT化に対応した教員養成について概観した。また，小学校英語の早期化・教科化に伴う，小学校教員養成外国語（英語）コアカリキュラム（以下，「小学校FLCC」と言う。）の課題について論じた。さらに，ICT活用指導力の定義の曖昧さを指摘し，ICT活用による教育的効果，ICT活用に対する不安や小学校英語に必要なICT活用指導力について先行研究をまとめた。

第2章・第3章では，個別の教科に特化したICT活用指導力の指標が不十分であることから，小学校英語に必要なICT活用指導力の指標としてHealeyら（2008，2011）の研究成果である「TESOL Technology Standards for Language Teacher Rubric」（以下，「TTST」と言う。）を用いた調査を，小学校教員及び教職課程履修学生を対象に実施した。同時に，指導意向と不安要因に関する調査も行い，結果について報告した。

第2章では，小学校教員に関する調査結果を報告した。ICTを活用した小学校英語の授業を見学したり，実際に指導したりすることで，ICT活用指導力改善に期待できることを明らかにした。また，ICTに関する基礎的知識や，小学校英語指導におけるICT活用について一定の理解はあるが，授業でのICT活用では児童の学習状況の把握や評価，オンライン上のコラボレーション，最新のICT活用教育に関する研修・情報収集などに課題があることを指摘した。指導意向と不安要因の関係では，英語使用場面でのICT活用では教員自身の英語力に関する不安があること，児童が英語の授業を楽しむためのICT活用ではICT機器トラブルへの対応に関する不安があること，音声（発音）の習得や異文化理解を促すためのICT活用ではその有効性や効果的な指導方法・事例について理解を深める必要があること，外国人との交流や英会話のた

めのICT活用ではICT機器トラブル対応に関する不安があること、の4点を明らかにした。

第3章では、教職課程履修学生に関する調査結果を報告した。ICTに関する基礎的な知識・技能の習得に対して一定の理解はあるが、コミュニケーション・コラボレーション・効率性向上のためのICT活用や、ICT活用指導に必要な学習及び最新の情報収集に課題があることを明らかにした。また、小学校FLCCにおいては、外国語の専門的事項に関する科目ではICTへの理解・基本的操作、外国語の指導法に関する科目ではICTを用いた言語活動やタスクデザイン、小学校教育実習では評価におけるICT活用について、各基準に対する自己評価の伸びや深い理解につながっていることを確かめた。ただ、TTSTの目標及び基準についての小学校教諭免許課程での学びは、限定的なICT活用指導力の育成・養成に留まっており、今後さらなる指導が必要であるとの重要な示唆を得た。指導意向と不安要因に関しては、児童の英語に対する興味・関心を高めるためのICT活用では学生や児童によるICT機器の有効活用に関する不安があること、児童が英語にふれる機会を提供するためのICT活用では児童によるインターネット使用や個人情報の管理に関する不安があること、の2点について示唆を得た。

第4章では、小学校教員と教職課程履修学生の比較検討を行った。TTSTに関しては、ICTに関する基礎的な知識・技能の習得・維持やICTの効果的活用に関して、学校現場での教職キャリアを積み重ねていく中で身に付けている可能性を指摘した。一方で、授業での指導場面以外では、言語指導や学習の効果の評価、最新の研究成果や技術開発を取り入れたICT活用については、小学校教員、教職課程履修学生ともに課題であることが分かった。指導意向と不安要因に関しては、小学校教員は授業での具体的な指導方法やトラブル対応に関する不安が強く、教職課程履修学生は学校現場でのICT活用に関する理解・知識不足や、授業でのICT活用に関する不安だけでなく個人情報やセキュリティ面に関する不安が強いことが明らかとなった。

第5章では、小学校FLCCの「外国語の指導法」において、具体的なICT活用指導力向上のための教員養成カリキュラム開発に向けて考察と提言を行なった。まず調査結果に基づき、(1)言語指導・学習に必要なICTを理解する能力、(2)言語指導・学習を促すICTを活用した教育実践ができる能力、(3)言語学習において児童が効果的かつ適切にICTを活用するための指導ができる能力の3つのコンピテンシー向上に課題があることを明確にした。次に、これらのコンピテンシー向上のため、アプリケーション活用による英語運用能力の向上、児童の多様化対応のためのICT活用、学習指導案作成時のビデオ会議や共同編集機能の活用、操作体験・経験によるICT活用に関する情報取得、スタディ・ログの活用、児童向け個別学習用教材の作成・配信といった具体的な指導方法を提案した。

本論文は、TTSTを小学校英語におけるICT活用指導力の指標として用いることで、小学校教員と教職課程履修学生の現状と課題（不安要因を含む）について明らかにし、求められるコンピテンシー向上のための具体的な教員養成カリキュラムにおける指導方法について考察したもので、特に小学校FLCCにおいて時間的制約がある中で、ICT活用指導力をさらに向上させるための方策について具体的に提案していることは意義が大変大きい。